

U-32 Young Officials Camp

参加報告書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	B.LEAGUE U15 FRIENDLY GAME 2018					
●日程	平成30年1月5日		(金)	～	平成30年1月6日	
●会場	浦安市運動公園総合体育館					
●講師	平 育雄様 片寄 達様 佐藤 誠様 加藤 誉樹様 漆間 大悟様 上田 篤拓様(1/5) 関口 知之様 平 育雄様 有澤 重行様 堀内 純様 細田 知宏様 上田 篤拓様(1/6)					
●スケジュール	平成30年1月5日 (金)					
	9:00 開講式 9:10 講師講話(平 育雄様 上田 篤拓様 加藤 誉樹様) 12:00 実技開始 20:00 夕食懇親会 10:00 終了					
	平成30年1月6日 (土)					
	9:00 ワークショップ(映像を用いてディスカッション) 11:00 実技開始 16:45 閉講式					
●担当試合	平成30年1月5日		(金)	13:00	～	13:30
	対戦カード		福島		VS	日の出中学校
	主審	主審	佐藤氏(北海道)	副審	赤羽氏(栃木)	副審 浅野
	講師/主任		漆間 大悟様			
	講評	<ul style="list-style-type: none"> ・立ち姿から見られていることを意識すること。重心を両足に均等にかけ、腕は自然と開けること。 ・ゲーム展開が一方的になり、トランジションの多いゲームとなったが、落ち着いてローテーションを行うことができていた。 ・リバウンドやルーズボールファウルが起こった際、見ている人がどちらのファウルかをすぐに分かるように、次のオフェンスのディレクションをさすこと。 ・ボール運びの際にセンターレフェリーがベーシックポジションに入るか、バックコートに残ってトレイルレフェリーと協力するかの判断の一つのポイントは、アクティブなマッチアップが2ペアあるかどうか。ベーシックに入ると判断したときは、ベーシックポジションに走ってはいること。 ・レポートの際に、より声を使うことを次の課題としてあげられた。 				
自己の感想	<ul style="list-style-type: none"> ・午前中に3POについての講義を受けて臨んだが、何度かローテーションミスがあった。特にトランジションの中でミスが起こったので、クレーを視野に入れておく重要性を感じた。 ・立ち姿を注意されたので、常に見られているという意識を改めてもち、まずは意識的に改善し習慣化していきたい。 ・ファウルを取り上げた際にディレクションを示すことは意識しないと体にしみつかないので、練習が必要だと感じた。 					

U-32 Young Officials Camp

参加報告書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	B.LEAGUE U15 FRIENDLY GAME 2018				
●日程	平成30年1月5日 (金) ~		平成30年1月6日 (土)		
●会場	浦安市運動公園総合体育館				
●講師	平 育雄様 片寄 達様 佐藤 誠様 加藤 誉樹様 漆間 大悟様 上田 篤拓様(1/5) 関口 知之様 平 育雄様 有澤 重行様 堀内 純様 細田 知宏様 上田 篤拓様(1/6)				
●スケジュール	平成30年1月5日 (金)				
	9:00 開講式 9:10 講師講話(平 育雄様 上田 篤拓様 加藤 誉樹様) 12:00 実技開始 20:00 夕食懇親会 10:00 終了				
	平成30年1月6日 (土)				
	9:00 ワークショップ(映像を用いてディスカッション) 11:00 実技開始 16:45 閉講式				
●担当試合	平成30年1月5日 (金) 15:00 ~ 15:30		ゲーム形式:8分(流し)ー1分ー8分		
	対戦カード	下貝塚中学校		VS	信州
	主審	主審	赤羽氏(栃木)	副審	浅野
		副審	佐藤氏(北海道)		
	講師/主任	佐藤 誠様 加藤 誉樹様			
講評	○佐藤 誠様 ・ダブルホイッスルの際は、アイコンタクトをとり、プライマリーレフェリーがレポートに行く。センターとトレイルがコールしたときは、オポジットにいるレフェリーがレポートに行く。 ・ラストワンプレイのジェスチャーと、誰が時間の管理をするかは必ずアイコンタクトをとって確認すること。5秒以内でトランジションが変わった場合は、センターレフェリーが時間の管理を行う。 ○加藤 誉樹様 ・下貝塚中の体の寄せに判定が下せていない。最大の要因はセンター。まずはボールサイドが変わった際、プライマリーは自分だとセンターが強く意識すること。そしてレフェリーディフェンスができる位置にアジャストすること。アジャストするには、一歩動く、アングルを変える、クロスステップを行う、ステイすると様々な方法があるが、その瞬間で最善の方法をチョイスする。3POはセンターが機能するかが非常に重要である。まずはそれを強く意識すること。				
自己の感想	・ダブルコールした際、ダブルコールに気づかずにすぐにその場でジェスチャーを示してしまった。クレーを常に視野に入れ、把握し、ダブルコールになった際はしっかりとアイコンタクトをとりたい。 ・3POのセンターの重要性を改めて感じた。まずはセンタープライマリーのエリアでアクションが起こった場合は、「これは自分のプレイ！」と強く意識する。そのうえで自信をもって判定を下せるよう、技術を高めていきたい。 ・レポートの際に声を出すことは1本目よりもできた。続けていきたい。				

U-32 Young Officials Camp

参加報告書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	B.LEAGUE U15 FRIENDLY GAME 2018					
●日程	平成30年1月5日 (金)		～	平成30年1月6日 (土)		
●会場	浦安市運動公園総合体育館					
●講師	平 育雄様 片寄 達様 佐藤 誠様 加藤 誉樹様 漆間 大悟様 上田 篤拓様(1/5) 関口 知之様 平 育雄様 有澤 重行様 堀内 純様 細田 知宏様 上田 篤拓様(1/6)					
●スケジュール	平成30年1月5日 (金)					
	9:00 開講式 9:10 講師講話(平 育雄様 上田 篤拓様 加藤 誉樹様) 12:00 実技開始 20:00 夕食懇親会 10:00 終了					
	平成30年1月6日 (土)					
	9:00 ワークショップ(映像を用いてディスカッション) 11:00 実技開始 16:45 閉講式					
●担当試合	平成30年1月6日 (土) 11:00		～	11:30		ゲーム形式:8分(流し)ー1分ー8分
	対戦カード	仙台		VS	千葉	
	主審	主審	浅野	副審	佐藤氏(北海道)	副審 赤羽氏(栃木)
	講師/主任	平 育雄様				
	講評	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションに自信を感じる。 ・初日よりメカの部分で向上している。 ・ボールがスキップパスでセンターサイドへ飛び、クイックドライブがあった場合、クロスステップの方が見やすいこともあれば、ステイしたほうが見やすいこともある。その判断力を向上させること。 				
自己の感想	<ul style="list-style-type: none"> ・同クレーで3本目で、なおかつ初日の講義、デモを受けた後であったので、共通の意識を持って臨むことができた。特に、ボールのチェックイン、チェックアウトの意識を強く持つことで、トレイルからセンターへ入る際、ピックザペイントの意識を持つと自然とリードフェリーが視野に入る感覚をつかむことができた。自分の中では大きく景色が変わったように感じた。 ・英語でプレゼンテーションを行った。声も大きく出すことでより自分に自信を持つことができ、堂々とすることができたように感じた。 					

U-32 Young Officials Camp

参加報告書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	B.LEAGUE U15 FRIENDLY GAME 2018						
●日程	平成30年1月5日 (金)		~		平成30年1月6日 (土)		
●会場	浦安市運動公園総合体育館						
●講師	平 育雄様 片寄 達様 佐藤 誠様 加藤 誉樹様 漆間 大悟様 上田 篤拓様(1/5) 関口 知之様 平 育雄様 有澤 重行様 堀内 純様 細田 知宏様 上田 篤拓様(1/6)						
●スケジュール	平成30年1月5日 (金)						
	9:00 開講式 9:10 講師講話(平 育雄様 上田 篤拓様 加藤 誉樹様) 12:00 実技開始 20:00 夕食懇親会 10:00 終了						
	平成30年1月6日 (土)						
	9:00 ワークショップ(映像を用いてディスカッション) 11:00 実技開始 16:45 閉講式						
●担当試合	平成30年1月6日 (土) 12:30 ~		13:00		ゲーム形式:8分(流し)ー1分ー8分		
	対戦カード		広島		VS 滋賀		
	主審		主審	浅野	副審	山口氏(長崎) 副審 伊藤氏(長野)	
	講師/主任		堀内 純様				
	講評		<ul style="list-style-type: none"> ・ドライブ、ショットの最中にリードがローテーションを行った次のトランジションでミスがあった。ミドルラインを超える前であればステップバックする判断をすること。 ・プレカンファレンスで、お互いの特徴をつかむこと。このレフェリーはこのタイミングではスイッチするだろうな、など、事前の知識があればよりスムーズにローテーションすることができる。 ・ノーマルファウルをアンスポにグレードアップしたが、クライテリアはどれか。試合終盤、お互いのチームファウルが積みあがっているときにルーズボールファウルがあったが、ボールコントロールファウルではなかったか。ツーショットの処置で正しかったか。常に説明できる準備をしておく。クレーは、少しでも疑問に思った場合は駆け寄って確認をすること。 				
自己の感想		<ul style="list-style-type: none"> ・このゲームも英語でプレゼンを行った。自信をもって声をつかい、プレゼンを行うことができた。 ・アンスポへのグレードアップの際、3人で集まれず、しっかりとコミュニケーションが取り切れないままグレードアップを行った。試合の終盤で大きな局面であったので、3人で話し合うべきであった。 ・チェックイン・チェックアウトの意識によってローテーションがスムーズにいくように感じたが、自分がボールをチェックインしたとき、相手にそれが伝わっていない場面があった。工夫していきたい。 					

U-32 Young Officials Camp

参加報告書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	B.LEAGUE U15 FRIENDLY GAME 2018					
●日程	平成30年1月5日 (金) ~		平成30年1月6日 (土)			
●会場	浦安市運動公園総合体育館					
●講師	平 育雄様 片寄 達様 佐藤 誠様 加藤 誉樹様 漆間 大悟様 上田 篤拓様(1/5) 関口 知之様 平 育雄様 有澤 重行様 堀内 純様 細田 知宏様 上田 篤拓様(1/6)					
●スケジュール	平成30年1月5日 (金)					
	9:00 開講式 9:10 講師講話(平 育雄様 上田 篤拓様 加藤 誉樹様) 12:00 実技開始 20:00 夕食懇親会 10:00 終了					
	平成30年1月6日 (土)					
	9:00 ワークショップ(映像を用いてディスカッション) 11:00 実技開始 16:45 閉講式					
●担当試合	平成30年1月6日 (土) 14:30 ~		15:00		ゲーム形式:8分(流し)ー1分ー8分	
	対戦カード	市川第一中学校		VS		大阪
	主審	主審	阿部(岩手)	副審	浅野	副審 大井(埼玉)
	講師/主任	上田 篤拓 様				
	講評	<ul style="list-style-type: none"> ・ニューリードに入るポジションについて、ボールがミドルラインをはさんでどちら側にあるかで判断をするが、セットアップポジションを広がりすぎないこと。 ・リードでアウトオブバウンズをコールし、オフェンスが変わる場合のトレイルの位置について。ディフェンスにプレッシャーがない場合は、ローテーションせずにスローワーにバウンズパスで渡しても差し支えない。レシーバーにプレッシャーがある場合は、左サイドから手渡しで渡す。 ・つまりこのときはトレイルがイニシアチブをとり、それ以外のクレーがリード、センターを決定する。 				
自己の感想	<ul style="list-style-type: none"> ・ニュートレイルが、エンドラインからのスローワーへボールを渡す際の位置について悩むことが多かったのが、納得することができた。 ・ダブルコールがあり、またアイコンタクトをとらずにスローインのジェスチャーを行い、レポートまで行ってしまった。前日に続くミスであり、落ち着いてアイコンタクトをとれていないことが課題に感じた。改善していきたい。 					

U-32 Young Officials Camp

参加報告書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	B.LEAGUE U15 FRIENDLY GAME 2018						
●日程	平成30年1月5日		(金)	～	平成30年1月6日		(土)
●会場	浦安市運動公園総合体育館						
●講師	平 育雄様 片寄 達様 佐藤 誠様 加藤 誉樹様 漆間 大悟様 上田 篤拓様(1/5)						
	関口 知之様 平 育雄様 有澤 重行様 堀内 純様 細田 知宏様 上田 篤拓様(1/6)						
●スケジュール	平成30年1月5日 (金)						
	9:00 開講式						
	9:10 講師講話(平 育雄様 上田 篤拓様 加藤 誉樹様)						
	12:00 実技開始						
	20:00 夕食懇親会						
	10:00 終了						
	平成30年1月6日 (土)						
	9:00 ワークショップ(映像を用いてディスカッション)						
	11:00 実技開始						
	16:45 閉講式						
●担当試合	平成30年1月6日		(土)	16:00	～	16:30	ゲーム形式:8分(流し)ー1分ー8分
	対戦カード	栃木		VS	千葉		
	主審	主審	伊藤氏(長野)	副審	池田氏(愛媛)	副審	浅野
	講師/主任	平 育雄様					
	講評	<ul style="list-style-type: none"> ・時間を正しく管理する。正しく管理していることをベンチに示す。その為の工夫を。例えば、24秒表示にチラッと視線を送るなど、周りから見て分かるように。 ・試合終盤のタイムアウト時に長く話し続けない。30秒で話を終わらせて、各ベンチ前に立つ。その際の立ち姿も重要である。 ・そのためにプレカンファレンスでしっかりと話し合う必要がある。 					
	自己の感想	<ul style="list-style-type: none"> ・2日間の総括として臨んだが、課題の残るゲームであった。相手のエリアを意識して、ビッグインパクトを3人でふきこぼした。1つタイミングをおくらせてヘルプで吹く、ということができるようになりたい。 ・メカ、ローテーションが正しく機能していれば、エリアが離れていてもクリアに見えた場合はアングルプライマリーであるという意識を持ち、チャレンジしていきたい。 					

大阪府バスケットボール協会審判委員会 御中

U-32 Young Officials Camp 参加報告書

大阪府バスケットボール協会審判員 浅野 祐樹

- 1、日時:平成30年1月5日(金)~6日(土)
- 2、会場:浦安市運動公園総合体育館
- 3、大会:B.LEAGUE U-15 FRIENDLY GAME 2018
- 4、スケジュール

●1月5日(金)

- 9:00~9:10 開講式
- 9:10~10:00 講義① 3P0 メカニクスについて 上田 篤拓 氏
- 10:00~11:00 講義② レフリーに求められる要素 加藤 誉樹 氏
- 12:00~19:00 実技研修(別紙報告書あり)
- 19:00~19:30 コート研修(加藤氏、漆間氏によるデモンストレーション)
- 20:00~22:00 懇親会

●1月6日(土)

- 9:00~10:30 ワークショップ 映像を用いて英語によるディスカッション
- 11:00~16:30 実技研修(別紙報告書あり)
- 16:45~16:50 閉講式

5、研修内容

○はじめに(平 育雄 氏)

講師である平氏より、この研修の始まった経緯についての話が合った。目的は2つで、国際審判員養成、トップレフェリーの育成である。

そのために、早い段階から、日ごろから準備を行うことが大切である。試合前の準備、試合後の準備。「次のゲームにつなげるための準備」である。現在は映像を用いることが可能になり、より準備の精度を上げることができるようになった。



この研修に集まっている受講生が変わることで、日本が変化していく、という言葉で講義は締めくくられた。

○講義① 3P0 メカニクスについて(上田 篤拓 氏) ※映像を用いてメカニクスの説明

プライマリエリア

・3人がプライマリエリアの絵を正しく理解できているかどうか。例えばプレカンファレンスで絵を描いてみる。

・3POと2POは全くの別物である。

プライマリエリアとアングル

- ・プライマリエリアでかつアングルを持っている人が1番手で判定をする人である。
- ・エリアとアングルではアングルの方がより優先度が高い。(エリアも重要ではあるが)

ローテーション

- ・3つのステージ(クローズダウン・ローテーション・フィニッシュ)がある。

ポジションスイッチ

- ・レポートした審判が、間違った場所に入ったとしても、そのまま自然と間違えて対応する。

ボールラインとボールレベル

- ・ボールライン ボールとサイドラインとを平行にひいたライン(y 軸)
- ・ボールレベル ボールとエンドラインとを平行にひいたライン(x 軸)

リードについて

- ・ボールラインを目安にポジションアジャスト。ボールがトップの位置ではクローズダウン。逆サイドに展開されれば、ボールサイド2をつくりたいので、ローテーション。

センターについて

- ・フリースローラインの延長線上がベーシックポジション。サイドラインの1歩手前。コート内に立つ。
- ・仮想のフリースローサークル内がセンターのワーキングエリア。

トレイルについて

- ・リードと同様、基本的にアウトサイドインでプレイを判定する。

ローテーション(センター)

- ・ボールがセンターサイドに来て、リードのローテーションが始まった時、センターはプレイにステイすること。(ポジションにステイするのではない)
- ・ポジションアジャストは必ず行う。(1歩動く、アングルをとる)
- ・チェックインしたことをトレイルレフェリーに伝える努力をする。

ローテーション(トレイル)

- ・ボールが逆サイドへいき、センターがボールをチェックインしたことを確認するとチェックアウト・ピックザペイントしながらセンターへ。

トレイルからリードへのチェックイン・チェックアウト

- ・ボールサイドで、ポストマンにボールが入った際、トレイルからリードへボールが移動されるが、リードがボールをチェックインしたことを確認した後も、トレイルはポストマンも視野に入れながら(チェックアウト)その周辺のプレイを確認する。その際、ストロングサイドから見えない位置をセンターがカバーする。

今回の研修でチャレンジすること

- ・ベーシックなポジションからどんな景色が見えるのか。
- ・ローテーションをしながら、自分のプライマリーエリアにいるアクティブなマッチアップの確認

○講義② プロレフリーに求められる要素(加藤 誉樹 氏)

プレゼンテーション

- ・正しい判定をすることと同じくらい重要。
- ・正しい判定を下しているだけではゲームは収まらない。

Court Presense

- ・Verbal Support(声)→Signals→Strong Body→In Charge(私はゲームの責任者である)

ゲームコントロールとマネジメント

- ・マネジメント・・・後から対処する、なんとか～する
- ・コントロール・・・ある一定の決められた範囲内で、運営管理を行う。
- ・ゲームコントロールという言葉を使い、コントロールを目指す。
- ・FIBAでは、control is attitude という言葉がある。
- ・謙虚さと誠実さを兼ね備えた態度が重要である。

コミュニケーション



- ・人がその人の印象を決定づける最も大きな要素はボディランゲージである。その次に声のトーン・スピード、最後に話す内容がくる。
- ・ベンチとコミュニケーションをとる際、正しくルールを説明することはもちろん重要だが、どういうトーン・スピード・姿勢・ジェスチャーで話しているかが重要である。
- ・言葉にせずとも伝えられるメッセージが重要である。

ウォーミングアップ

- ・ウォーミングアップ時に、心拍数をゲーム中の最大値まで上げておく。

プレゲームカンファレンス

- ・加藤氏のプレゲームカンファレンス例。過去の対戦例。HCの特徴。チーム、選手の特徴・・・等々。
- ・メカニクスの確認。とてもベーシックなもの。

○コート研修

ボールのアクセプト・チェックインについて

- ・どうチェックインを相手に伝えるか。ポジションアジャスト。アングル。

プレゼンテーション

- ・ファウルをコールしたその場で、ショット、スローイン、オフENSEのディレクション等をシグナルとともに声で示すことが重要。
- ・レポートの際も声を使って行う。会場全体に聞こえる大きくわかりやすい声で。

・ゲーム中に声を使う際は、笛をくわえたまま声を使う。

笛の使い方

- ・基本的にはシングルで吹く。(強さや長さは工夫できる。)
- ・会場の注目を集めたいときにダブル、トリプルを活用する。「何か違うぞ」と思わせるために使う。1 試合で何度も使わない。

○ワークショップ

・事前に与えられた映像をもとに、英語のみでディスカッションを行った。6 人のグループでPCは 2 台で行った。その後ディスカッションの内容をプレゼンテーションした。全員が必ず発表するという内容であった。



・日本人は国際試合でも他のグループに積極的に入っていない傾向がある。大切なのは言葉が話せなくても伝えようとすることである。英語圏の国以外は皆英語が母国語なわけではないので、憶する必要はない。(上田 篤拓 氏)

○研修を通しての感想

この 2 日間を通して、3POについての理解が深まりました。ハーフゲームを 2 日で 6 本行い、その都度講師の先生方からアドバイスを頂くことができたので、学び、実践、反省、改善というサイクルをどんどん回すことができ、非常に充実していました。

特に印象に残っているのがチェックイン・チェックアウトの考え方です。私はこの言葉を今回の研修で初めて聞きました。トレイルサイドからセンターサイドへボールが移った際、センターがチェックインしたかどうか確認し、チェックインしたようならピックザペイントを行う。そうすることでリードのローテーションも自然と視野に入ってくる、という感覚を感じることができました。今まで何となく行っていた動作の具体的なタイミングがわかったことは、大きな収穫でした。

プレゼンテーションの重要さも再認識しました。今までもプレゼンテーションについてはこだわってやってきたつもりでしたが、トップレフェリーの方々からの話を聞いて、さらにその重要性を感じました。立ち姿は普段からの姿がどうしても出てくる部分だと思うので、レフェリーをしているとき以外でも、立ち姿、姿勢には気を配っていきたいと感じました。

全国の同年代の仲間ができたことも大きな収穫でした。普段から、自身の審判力向上のために全国を飛び回っている仲間もあり、おおいに刺激を受けました。

この研修を通して最も大きく変わったことは、モチベーションです。憧れではなく目標として、次のステージを目指したいと思いました。そのためには今後もさらなる向上心を持ち続け、精進していきたいと思います。

最後になりましたが、この研修に参加する機会を与えて頂き、本当にありがとうございました。

